九品仏自治会だより

http://setagaya-chousouren.org/　トップ→町会・自治会一覧

発行者　九品仏自治会
会長　横山　昭夫
奥沢 8-7-4 (3701-7558)
発行日　2011.6.20.　VOL.147

東日本大震災 義援金 & 支援金

既に世田谷の広報が伝えていますが、区を通じて集められた義援金 123,526,717 円は、岩手・宮城・福島・茨城・栃木・千葉県の被災地に届けられました。この中には４月の総会でご承認いただいた自治会災害予備費(積立)から拠出の３０万円も含まれています。
また世田谷区では、9月３０日まで東日本大震災復興支援金を募っています。募金は九品仏まちづくりセンターでも受け付けています。(詳細は窓口・ホームページで)

節電に伴い

７月8月9月の午後、区の施設の一部利用が制限されます。
九品仏地区会館第１会議室は、午後の利用ができません。**→ ふれあい会の会場が変更です**
奥沢・尾山台図書館は、金曜日(9/２３を除く)も休館となります。

カレンダー

6 月
22(水)　回覧セット
22(水)　協力員・理事懇親会
24(金)　いきいき九品仏の会
28(火)　組織部会・防災部会
30(木)　町総連総会

7月
1(金)　玉川地域防災会議
4(月)　災害時要援護者支援に関する講演会
4(月)　九小 PTA 古紙回収
5(火)　定例打合せ会
6(水)　町会長会議
12(火)　ふれあい会
12(火)　定例理事会
16(土)　盆踊り(八幡小校庭)
22(金)～31(日)　ラジオ体操会
30(土)　親子花火大会

7月のふれあい会

九品仏をもっと知ろう
「あなたのまちの昔の話」

九品仏で育った４人の方々に
ひと昔前の九品仏のまちを
語っていただきますが
あなたの知っている九品仏も
ぜひ教えて!!

７月１２日(火)　午後１時～３時
会場　活動フロアー
(九品仏まちづくりセンター2 階)
参加費　１００円
連絡先　3703-6632(青木)

社会福祉協議会の会員募集お知らせ

社会福祉協議会の会費は、地域支え合い活動の子育てサロン、ミニデイやふれあいサービスを始め地域の福祉活動に使われています。自治会からも拠出していますが、一層のご協力を頂ければ幸甚です。

19 年度から九品仏地区社協が活動を始めました。この地区で集められた会費の半分が、その活動財源に充てられます。

７月から８月にかけて、地域の協力員(民生委員など)が、会員の募集に伺いますのでご協力のほどお願い申し上げます。
(別紙九品仏地区社協だよりをご覧ください)

今年 75 歳になるかたへ

自治会では会費の集金と同時に、75歳以上の会員の把握を行っています。
(敬老祝い配布・災害対策の基礎データとして使用いたします)

今年75才になるのは
昭和11年生まれの方です

同居ご家族に該当者がおいでの場合は、お当番を通じてお知らせください。

回覧															

裏面あり「ハクビシンが我が家に」「回覧ノートから」

ハクビシンが住宅地に!!
もしかしてあなたの家にも…

皆様は、見たこと、聞いたことありますか?

さて５月８日昼１時頃、我が家で起きた珍事をご紹介いたします。

我が家には、１５センチ幅の塀が廻らされています。

日頃、家族を癒してくれる愛しい２匹の飼い猫がいますが、彼らに外の刺激を与えようとガラス越しに見える塀の上に、植物のポットを置いてあります。そこに来る小鳥や偵察のごとくゆっくり闊歩する外猫を見つけると「おともだちよ～」の合い言葉をかけます。すると駈け寄ってきて大きな目を輝かして驚いたり、唸ったり、様々な表情での反応が可愛くて、果物で小鳥を誘ったりして遊んでいます。

この日は、例のごとく塀に登場した外猫に「おともだちよ～」　瞬間!! 驚きました。猫ではない！

ハクビシンの存在は、以前から浄真寺の境内の高い木の上で、昨年は多摩川の花火大会の帰りに電線を渡っている姿を遠目に見て知っていました。

突然、あまりにも近くでの遭遇に驚きが先立ち、飼い猫の存在も忘れて私自身が興奮して追いかけました。

体長４０センチくらい、色は灰褐色、長くフワァーとした太いしっぽ、わずかな時間ではありましたが、逃げずにゆっくり歩いていたので、3.5 メートルのガラス越しに、入場から退場までの舞台を見ているようでした。

見えなくなり、慌てて先回りをして裏から表に移動してみると、またも顔合わせすることになり、まさかのハクビシンだと気がつきました。

外に出て追ったのですが、隣の家の庭先で、回れ右をして奥に消えました。

８丁目池田

自治会回覧ノートから

※　この度の震災では、連絡手段が途絶えた中、家族の安否を気遣い、そして十分な睡眠もとれない程、立て続けに起こる余震への不安に包まれました。

皆様も同じような思いでいらっしゃったのではないでしょうか。

東京にいる私たちがこのような不安に駆られたということは、被災地の方々は、どのような生活を強いられ、どのような思いで日々過ごされていらっしゃるかと思いますと、想像もつきません。

今回の事で、我が家では、我が家なりに考えてみました。

先ずに、家庭内で出来る事、そして、家庭から家庭外へ出来る事。色々あるかと思います。

出来る事は些細な事では有りますが、一個人から始め、それを家庭にて共有、日常化し、そして、皆さんと分かち合い、人から人へ、家庭から家庭へ、社会から社会へと繋がり、大きな支援へとなっていけばと思っております。

ご近所の皆様ともご協力しあいながら参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。　６丁目Ａさん

※　３月１１日当日私は在宅しておりましたが八十九年の生涯初めての恐ろしい思いをいたしました。又、今も続く余震に悩まされ、医師に地震酔いと診断されました。

ご近所の皆様には何かとお世話になります事多々と存じます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。　８丁目Ｂさん

（被災された方々に対する哀悼とお見舞いの言葉は省かせて頂いております。）